

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

みつばちハウス

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

『すみれユニット』が一階、『なのはなユニット』が二階にあるホームを久しぶりに訪れると、室内の雰囲気が変わっていた。衛生面を考えてのことだそうだが、リビングから居室まで床面がすべて、暖かい色のフローリングに変わり、明るく広い感じになった。

建物には変化があったが、生活している利用者はレベルの低下があまり見られず、以前と変わらない楽しく落ち着いた暮らしができていようだ。リビングでは利用者同士仲良く座って何気ないおしゃべりしている。家族のことを心配している利用者に職員が真剣に答えてあげている場面もある。利用者も職員もそこにいる人はみんな親しい仲間であり、お互い自然体でいられる家族のような感じを受ける。ホームの目指している『なじみの関係』ができていようと思う。

また、自分の意思で自発的に何かをし、満足したような笑顔をいくつも見ることができた。「この歳になって勉強を始めた。」と字の練習をしている女性は、練習ノートを見せて自慢そう。名前もわからない状態からの大変化だそうだ。リビングのいすを抱えあげて廊下へ運び出す男性がいる。職員は危険がないよう見守りしているが、この男性が働き者の大工さんだったことを理解して、気が済むまでこの行動をさせてあげている。ひと仕事を終えると満足そうにまた仲間のいるリビングで休む。職員全員が利用者一人ひとりの経歴や性格など十分に知り尽くして、日々の場面でどんな支援が適切かを計画に盛り込んで実行している。手を出しすぎたり否定したりせず見守りに徹することもあれば、時には何かしようとしている人にすかさず適切な手助けをしたり褒め称えたりしている。それが利用者の意欲を持続させ、充実した気持ちにさせていると思う。体力維持のための体操や歩行訓練も行っており、心身ともにレベル低下を防ぎ、充実感を持った生活を送ることができていると思う。

もう一つすばらしい点は『地域交流』である。以前からの幼稚園児との交流に加えて、運営推進会議をきっかけに、老人会や地域住民との交流が深まった。ホームと地域の人たちとの招いたり招かれたりとの関係は、利用者の社会参加という点で、やはり心身の活性化をもたらしてくれている。災害時の支援要請をしたり、ホームから地域への貢献をすることもできている。

**特に改善の余地があると思われる点**

記録は健康記録、ケアプラン実施表、毎日の介護記録など詳しく記録されているが、この記録を今後のケアに生かすためには、記録様式をもう少し工夫してほしいと思う。表で記入する形式で済む事柄もあるし、会話そのものを記録する方がわかることもある。異変や重要な言動に赤印を付けるなど、記入しやすくより見直しやすい記録様式を、両ユニットの職員で話し合って考え出し、今後に役立ててほしい。

家族参加行事の時に家族同士が話せる時間を少しでも設けてみてはどうでしょうか。家族からの意見や要望を引き出したり、協力を得ることができるかもしれないし、家族会成立の糸口になるかもしれない。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…毎年理念について話し合いをもち、理想とするホーム実現のためには、開設時からの理念を追求していこうと結論づけている。</p> <p>2. 全体を通して…『なじみの関係、個性・主体性の尊重、当たり前前の生活、明るく楽しく穏やかに』というホームの理念に向けて、利用者一人ひとりに対して、またホーム全体での取り組みに対して、綿密な計画を立てて実行している。利用者が自由な時間を過ごしている中で、楽しみながら進んでできることを見出してあげ、充実した生活が出来るように支援していくこと、また地域との自然な交流をもち、普通の人として、当たり前前の生活ができるように支援している。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…既存の建物という条件下で、少しでもよい環境を整えようという試みを行っている。新たな問題として、浴槽など利用者の重度化への対応が必要となりつつある。</p> <p>2. 全体を通して…広いリビングにはテーブルやソファが置かれ、利用者が自由に居場所を選べ、穏やかに生活出来るようにしている。事務室を回る廊下には手すりがあり、歩行訓練場や運動の場としている。庭やベランダがない代わりに、広い屋上があるのでよい季節には、日光浴、運動、レクリエーションなどに活用したい。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…利用者の重度化により、買物など少しずつできなくなることも増えてきているが、利用者の希望を聞きながらできるだけ取り組む努力をしている。</p> <p>2. 全体を通して…二つのユニットでは行事などは同じ計画に従って行いが、利用者のレベルも違うし、ユニット独自の方法でケアに取り組んでいる。だが、共通して言えるのは、利用者一人ひとりについて詳しいアセスメントをとり、どのような支援をしていくか綿密な計画を立て、それを全職員がしっかり共有してケアに取り組んでいることである。職員間の十分な話し合いの結果であり、利用者が職員を信頼しているのではないと思う。見守りを中心としているが、常に利用者が何を必要としているかに配慮していることが、利用者の自由で穏やかな生活を支えている。生活の基盤である身体ケアについてはそれとなくであるがもちろん確実にを行い、外出やレクリエーションにも多く取り組み利用者の生活を豊かにしている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…地域交流、地域貢献への取り組みはすばらしい。研修生受け入れ時の家族への説明については、ホームの「たより」などで知らせればよいと思う。</p> <p>2. 全体を通して…法人は研修に積極的な支援を行ったり、相談を受けたりしてサービスの向上を支援している。家族とは「たより」などで連絡をとりあい、協力を得られる関係が深まってきている。地域とはすばらしい交流を行っており、利用者や地域の両方に喜ばれている。運営推進会議そのものを利用者全員参加の交流の場とするという奇抜な開催方法が、地域の人たちとの新たな交流も生んでいる。災害時の支援体制作りや地域行事への参加要請も受けており、利用者の生活に豊かさをプラスしてくれる。講演会を開催して地域の人に参加してもらい、認知症への理解を深める取り組みをするなど地域への貢献もできている。</p>		